

宮還閑看白鶴飛華表醉倚雲梯縹渺間

又龍洲詩

路絕盤渦束峽間飛仙於此亦凋顏誰令鳥鵲愁銀漢可異蛟蛇化艸萱陶素蟠桃通利濤衡山絕頂有躋攀由來禹鼎驅鬼魅天下名區鬼得慳

〔遊囊賸記二十四〕山菅橋ハ今ノ朱ノ御橋是ナリトイフ此ニ並タルヲ假橋トテ貴賤ノ通路トス

橋ノ向方ニ深沙大王ヲ祀ルコトハ此橋ニツキテ古キ因縁アル故ニヤ

〔夫木和歌抄二十一〕をだえのはし 緒斷 陸奥

〔名所方角抄陸奥〕緒絶 とだえの橋とも丸木橋とも

〔奥羽觀蹟聞老志八〕緒絶橋

古川驛中小板橋是也其水源乃玉造河流分而入稻葉村是古稱緒絶橋也

〔後拾遺和歌集十三〕伊勢の齋宮わたりよりまかり上りて侍りける人に忍びて通ひける事を、お

ほやけもきこしめして、まもりめなどつけさせ給ひて、忍びにも通はずなりにければ、○中略

おなじ所にむすびつけさせ侍りける、 左京大夫道雅

みちのくの緒絶の橋や是ならんふみ、ふますみ心まどはず

〔奥の細道〕十二日元祿十年五月平和泉と心ざし、あねはの松、緒だえの橋など聞き傳へて、人跡稀に雉

兎菟蕘の往きかふ道、そこともわかず、終に路ふみたがへて石の卷といふ湊に出づ、

〔夫木和歌抄二十一〕とだえの橋 陸奥

〔國花萬葉記十一〕とだえの橋 をだえの橋なり、とだへと云によりて、あやうきよしをよめり、

〔奥羽觀蹟聞老志六〕途絶圮

過今市河橋、入岩切農家所有小圮、郷俗曰之轟行圮、是古之所謂途絶圮也、土橋之極而短狹者也、誤

陸奥國 緒絶橋

途絶橋